

平成28年度 病虫害防除情報

平成28年12月21日
発表：福島県病虫害防除所

県内で初めてQoI剤耐性いもち病菌の発生が確認されました。

QoI剤を含む育苗箱施用剤の連用は避けてください。

- 1 対象作物：水稲
- 2 病虫害：イネいもち病
- 3 対象地域：県内全域

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 QoI剤は、平成11年からいもち病防除の本田散布剤としてアゾキシストロビン剤（商品名「アミスター」）やメトミノストロビン剤（商品名「オリブライト」）が使用されてきましたが、平成19年に育苗箱施用剤としてオリサストロビン剤（商品名「嵐」）が開発され、紋枯病の同時防除も可能なため全国的に流通量が増加しました。2 平成24年に、西日本の6県でQoI剤耐性菌の発生が初めて確認されました。平成26年には宮城県、翌27年には秋田県及び山形県でも確認され、現在までに全国18府県で発生が確認されています。3 福島県では、平成27年から県内各地で発生した葉いもち、穂いもちからいもち病菌を採取し、耐性菌検定を実施してきました。 |
|---|

4 QoI剤耐性菌の発生状況

- (1) 本年、県内各地の一般ほ場で発生した葉いもち5地点、穂いもち10地点からそれぞれ5菌株を採取し、県農業総合センターでアゾキシストロビンによる薬剤感受性検定、PCR検定を実施したところ、葉いもち5地点のうち1地点5菌株から耐性菌が確認されました（表1）。
- (2) 耐性菌が確認されたほ場は、オリサストロビン剤（商品名「嵐スタークル箱粒剤」）を5～6年連用し、本田での防除は未実施でした。
- (3) 耐性菌の発生が確認された1地点を除いた14地点から、耐性菌は確認されませんでした。これら14地点でのいもち防除は、いずれもQoI剤以外の薬剤によるものでした。

5 防除対策

- (1) 県内で流通している育苗箱施用剤のうち、QoI剤を含む薬剤は表3のとおりです。平成28年度にQoI剤を含む育苗箱施用剤を使用したほ場では、平成29年度以降、系統の異なる薬剤（表2参照）に切り替えて防除を実施してください。
- (2) QoI剤以外の育苗箱施用剤では、これまでのところ耐性菌の発生は確認されておらず、また、耐性菌が発生するリスクも極めて低いと考えられます（表2）。
- (3) QoI剤を含む本田散布剤（表3参照）を使用する場合は、QoI剤を含まない育苗箱施用剤を必ず使用してください。

表1 QoI耐性菌の発生状況

	地方	採取地点	耐性菌発生地点	備考
葉いもち	中通り	2	0	
	会津	2	1	※原体メーカーのクロスチェックでも遺伝子変異ありと判定
	浜通り	1	0	
穂いもち	中通り	6	0	
	会津	4	0	

表2 系統別耐性菌発生リスク（日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会・2012年）

作用機構	商品名	登録年次	成分名	耐性菌発生リスク	コード※
QoI殺菌剤	アミスター	H10	アゾキシストロビン	高	C3
	オリブライト イモチエース	H10 H16	メトミノストロビン		
	嵐	H18	オリサストロビン		
メラニン生合成阻害剤 MBI-R	ラブサイド	S50	フサライド	耐性菌未発生	I1
	コラトップ	S60	ピロキロン		
	ビーム	S56	トリシクラゾール		
抵抗性誘導剤	オリゼメート	S49	プロベナゾール	耐性菌未発生	P1
	ブイゲット	H15	チアジニル		P2
	ルーチン	H22	イソチアニル		
ホスホロチオレート系 ジチオラン系	キタジンP フジワン	S43 S49	I B P イソプロチオラン	低～中	F2

※ 防除指針には、薬剤系統として記載

表3 県内で流通しているQoI剤を含むいもち病防除薬剤（27農業年度）

種類	有効成分（殺菌）	商品名
育苗箱施用剤	オリサストロビン	嵐プリンス箱粒剤 6 嵐プリンス箱粒剤 10 嵐ダントツ箱粒剤 嵐スタークル箱粒剤
本田散布剤	アゾキシストロビン	アミスターエイト アミスタートレボンSE
	メトミノストロビン	オリブライト1キロ粒剤 イモチエース粒剤 イモチエース1キロ粒剤 10 イモチミン粒剤 イモチエースキラップ粒剤 イモチエーススタークル粒剤 オリブライト250G オリブライト粒剤

- 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください（TEL 024-958-1709、FAX 024-958-1727）。
- 本情報は、福島県病害虫防除所のホームページ（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）でもご覧になれます。